

論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※ 甲 第	号
------	-------	---

氏 名 今 井 美 香

論 文 題 目

排泄時を想定した怒責が直腸内圧および循環系に及ぼす影響の
基礎的研究

- 生理的に安全・安楽に排便するための根拠の構築 -

論文審査担当者

主 査 名古屋大学教授 山内 豊明

名古屋大学教授 玉腰 浩司

名古屋大学教授 平井 眞理

論文審査の結果の要旨

排便中の急変事例が多い原因として、排便時の「怒責」が急激な血圧の上昇および自律神経の変化を引き起こすためと指摘されている。しかしながら排便には怒責によりある一定以上に直腸内圧を高める行為が必要不可欠であり、いかに少ない怒責で効率よく直腸内圧を高め、循環系への影響を少なくして排便できる姿勢をとるか、が重要と言える。また、排便は避けることのできない基本的欲求の一つであり、何らかの状況により床上で生活することを余儀なくされた患者にとっても同様のニーズである。床上での排便は非日常的な体位での排便方法となり、患者にとって抵抗が強く、できる限り早期に座位で排便することを希望している。看護師は、科学的根拠に裏づけされた技術とアセスメント能力を持って、患者が「安全・安楽に排便できる」ように援助する専門性が求められるにもかかわらず、効率性と安全性からみた排便時の姿勢選択に関する基礎的な研究はなされていないのが現状である。

そこで本研究では、床上排便および座位姿勢での排便を想定した姿勢で怒責を負荷することを指示し、血圧の変化を引き起こすことなく直腸内圧の増加を促進する排便姿勢を検討した。

本研究の新知見と意義は要約すると以下のとおりである。

1. 各姿勢や角度での怒責の加え方および体幹の位置のとり方に関する先行実験を 2 つ実施した結果、1 つ目の実験からは、直腸内圧基準の怒責を加える方が循環系に対する影響が少なく、より排便時の怒責方法に類似していることが考えられ、排便時を想定した怒責方法は、直腸内圧を基準とした方が良いことが示唆された。2 つ目の実験からは、骨盤の前傾位のほうが、筋活動が少なく血圧の変化を同等にして、排便に有効な直腸内圧に高めることができ、排便しやすい体位であることが示唆された。
2. 床上での排便姿勢では、抗重力姿勢をとるほど怒責を加えると少ない筋活動で効果的に直腸内圧を高めることができ、上半身を起こした方が血圧や心拍数への影響を少なくして排便することができると考えられた。
3. 座位での排便姿勢では、体幹が 90 度より 120 度の前方に傾くことで直腸 - 肛門角度が鈍角になり直腸内圧が高まりやすく、循環系の変動はどちらの姿勢でも差はないことから、効率的に排便可能な姿勢は 120 度の姿勢であることが示唆された。
4. 床上と座位を比較した排便姿勢では、床上より座位の方が怒責を加えやすく効果的に直腸内圧が高まり、少ない怒責で直腸内圧を高めることが可能なため、怒責による循環系への影響は少ないことが考えられた。したがって、循環系の変動が少ない安全な姿勢というのはどちらの姿勢でも差はなく、効率的な視点から直腸内圧が高まりやすい姿勢は座位であることが示唆された。

本研究は、効率的で安全な排便を容易にするための方法を、生理的指標をもとに実験的に検証した基礎的資料である。それは、排便時の急変のリスクを減らすことにつながることに加えて、看護師が行う排便に対する援助の科学的根拠を裏付ける研究となり、基礎看護技術の向上に役立つ。また、看護実践の科学的根拠の確立のための看護研究手法における実験研究の意義を示すことが可能である。

以上の理由により、本研究は博士（看護学）の学位を授与するのに相応しい価値を有するものと評価した。